

研究活動報告

日本人口学会2009年度・第1回東日本地域部会

日本人口学会2009年度第1回東日本地域部会は、2009年9月4日(金)、札幌市立大学サテライトキャンパス(札幌市)にて開催された。報告タイトルと発表者は下記の通りである。

1. 「CWR を利用した TFR の推定」……………山内昌和(国立社会保障・人口問題研究所)
2. 「首都圏における自然社会別メッシュ人口変化—小地域別人口動態分析の試み」
……………小池司朗(国立社会保障・人口問題研究所)
3. 「離家とパートナーシップ形成タイミングの日米比較」
……………菅桂太(国立社会保障・人口問題研究所)
4. 「東アジアにおける出生動向と人口政策」……………佐々井司(国立社会保障・人口問題研究所)
5. 「近年と戦前の帰農パターンの差違に関する予備的考察」
……………飯坂正弘(独立行政法人/農業・食品産業技術総合研究機構)
6. 「札幌市の配偶関係別純移動率 2000年-2005年の推計」……………原俊彦(札幌市立大学)
7. 「市町村別にみた産業別従業者数について—人口分布と産業別従業者分布など」
……………大林千一(帝京大学)

一昨年・昨年に引き続き、様々な調査データ・統計データを活用したプレゼンテーションが行われ、参加者も例年より多かった。テーマも多岐にわたったが、それぞれに対して活発な質疑応答がなされ、密度の濃い部会となった。(小池司朗記)

日本地理学会2009年秋季学術大会

日本地理学会2009年秋季学術大会が2009年10月24~27日(26日と27日は巡検のみ)に琉球大学千原キャンパス(沖縄県西原町)において開催された。一般発表111件、ポスター発表48件のほか、7つのシンポジウムで44件の発表があった。人口関連分野の報告も多数行われた。以下、主なものについて発表題目を紹介する。

- 「非共働き世帯に対する地域子育て支援の供給と地域的背景—三鷹市および高松市の比較から」
……………久木元美琴(東京大・院 学振特別研究員)
- 「上海市里弄(リロン)住宅地域の再開発に伴う人口分散と都市拡大—静安区大中里を例として」
……………任海(日本大・院)
- 「沖縄県の高出生率の要因—沖縄県南部地域の調査をもとに」
……………山内昌和(社人研)・江崎雄治(専修大)・西岡八郎・小池司朗・菅桂太(社人研)
- 「都道府県別心疾患・脳血管疾患死亡数の季節変化」
……………北島晴美(信州大)・太田節子(信州医療福祉専門学校)
- 「奄美・沖縄離島における人口変化と高齢化」……………宮内久光(琉球大)・平井誠(神奈川大)

「奄美大島宇検村芦検出身者の U ターン移動の特徴と発生要因」 ……………鄭美愛（神奈川県・非）
「都道府県人口の変化と自然増加・社会増加との関係」 ……………山神達也（立命館大）
（山内昌和記）

第26回国際人口学会大会

国際人口学会（International Union for the Scientific Study of Population）は、4年毎に大会（International Population Conference）を開催する。その第26回大会が2009年9月27～10月2日にモロッコのマラケシュ市で開催された。会議では英語とフランス語が公用語とされ、前回公用語だったスペイン語の同時通訳は提供されなかった。またモロッコはフランス語圏ではあるが、さすがに前回（2005年）のフランス開催時に比べるとフランス語の比重が減り、英語への一本化が進んでいる印象を受けた。

大会ホームページ（<http://iussp2009.princeton.edu>）によると、ポスターセッションを含む報告登録者は2,766名にのぼった。これらがすべてマラケシュを訪れたわけではないが、一方で報告を行わない参加者も大勢あったことから、2,000名以上の参加者があったのではないと思われる。当研究所からは佐藤龍三郎（国際関係部長）、金子隆一（人口動向研究部長）、岩澤美帆（同第三室長）、暮石渉（社会保障基礎理論研究部研究員）と筆者が参加した。

正規部会数は前回のフランス大会の161から大幅に増え、224部会にのぼった。これらを筆者の独断で分類すると、次のようになる。

理論・方法論	27	経済・環境	31
出生・生殖	36	社会・文化	19
結婚・家族	24	地域研究	19
死亡・疾病	33	その他	8
移動・分布	27		

理論・方法論に分類したのは、確率論的推計を含む人口推計の方法論やGISのような空間的アプローチ、パネル調査の利用といった部会である。出生・生殖に含めた部会には、途上国の高出生力に関する部会も依然として多いが、最近の動向を反映して先進国の低出生力問題を扱う部会が増えた。結婚・家族に含めたのは、結婚を含む若者のユニオン形成やジェンダー関係・世代間関係に関わる部会である。死亡・疾病ではHIV/AIDSに関する部会が目立つが、性差や階層差に関する部会も見られた。移動・分布では国際人口移動の部会も多いが、やはり都市化・開発・環境破壊と関連する国内移動関連の部会数が上回った。経済・環境に含めたのは貧困と開発、人口高齢化と社会保障、気候変動や水資源といったトピックである。社会・文化には宗教やジェンダーに関する部会を含めた。地域研究はほとんどがアラブ諸国に関する部会だが、「ラテンアメリカの人口転換」「アジアの人口変動」といった部会もあった。

閉会式では韓国が次回大会の開催に立候補した。他に立候補の表明がなかったので、2013年の大会は釜山で開催される可能性が高いと見られる。（鈴木 透記）